

所属：スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
 資格：教授  
 氏名：小山 裕三

<p>研究課題名</p>	<p>運動教授による運動実施者の運動感覚の変容に関する内省的考察（砲丸投を対象として）</p>
<p>研究目的及び研究概要</p>	<p>動きの把握においては、当該運動を「外側」から把握する場合と、「内外」から把握する場合があります。前者はバイオメカニクスなどの自然科学的研究に代表される。これに対して、「内外」からの把握は運動学などによって行われる。動きの学習においては「内側」からの動きの把握が重要であることが指摘されている（トレベルス，1994）。動きを内側から把握する上で重要となるのは、運動実施者本人の内観による内省分析である。ここでいう内省は、運動実施者の運動経験や運動知識などの経験による抽出もしくは、運動実施者に対する指導者の指示による抽出がある。前者は自己発生および選手間の対話などにより創発され、トップレベルのアスリートなどに見られる場合が多い。一方で後者は、指導者による言語指示や専門書などの指導教本から得た変容が考えられ、これらは該当する運動初心者や未経験の運動を実施する場合、まれにトップアスリートでも発生する。これらの現象を取り出す手段として内省分析があり、自身の行動を振り返ることが求められる。自身の行動を振り返るため、運動経験の有無や知識が大きく影響を与えてくると考えられる。つまり、動きを把握し、運動教授による動きの変容について考察するためには、被験者の運動経験や知識が大きく影響してくると考えられる。そこで該当運動の運動経験がなく、専門的知識を有さない被験者を対象とし、運動教授による運動感覚の変容について考察することを目的とした。</p>
<p>研究実績の概要</p>	<p>運動教授の具体的な手段として、言語による教授法を用いた。実験としては、日常的に運動経験があり砲丸投立ち投げ運動遂行に支障がない者とした。実験試技は全天候型陸上競技場の砲丸投ピットにおいて立ち投げ運動を実施した。その後、こちらで設定した指導ポイントを言語で指導し、練習を行わせた後に再度立ち投げ運動を実施した。実験試技の前と後には被験者の運動構造の把握および変化の状況について把握するために質問紙によるアンケート調査を行い、被験者の内省分析を行った。</p> <p>本研究における被験者の内省分析について、運動実施後に質問紙にて内省を抽出した分については、「事後的内省」として区分する（朝岡，1999）。また、報告された内省についてビランの運動内観（内省）の報告内容の区分に従い区分した。</p> <p>その結果、動きに変化を与える言語として、自身の運動質の快・不快感情に影響を与える項目であることが分かった。</p> <p>本研究結果は、2020年3月8日開催予定であった東京体育学会第11回学会大会にて発表する予定であったが、新型コロナウイルスの蔓延から中止となってしまった。</p>